



2022年度 一般社団法人 大学女性協会 公開シンポジウム

教育・ジェンダー・共生

～ ユースの視点から見直そう これからの日本 ～

日時：2022年10月22日（土） 10時30分～16時
会場：エッサム神田ホール2号館6階・中会議室2-601
〒101-0047 東京都千代田区内神田3-24-5
主催：一般社団法人 大学女性協会

ご挨拶

大学女性協会 会長 岩村道子

本日は大学女性協会の公開シンポジウムにご参加くださりありがとうございます。私共はコロナ禍が始まった2020年度から対面・オンラインのハイブリッド形式でのシンポジウム・セミナーを開催して、会場での参加者よりも多数の方にパソコンやスマホ越しにご参加いただきました。コロナの脅威が以前と比べ著しく軽減した今回はこれまでよりも多数の方がこの会場にお見えになっていらっしゃると思います。

大学女性協会では2018年度より「教育・ジェンダー・共生」をメインテーマとしてシンポジウムとセミナーを開催しています。2020年度シンポジウムは「コロナ禍を契機にみえてきた教育の本質」、2021年度セミナーは「コロナ後の共生社会を支える教育」をサブテーマとして、コロナ禍により変化した社会を教育の面から眺めてまいりました。

今年度は教育の現場から一歩踏み出して日本の社会の変化を見ることにいたしました。数年前より国民の6人に1人は生活困窮者であるといわれていますが、コロナ禍そしてロシアのウクライナ侵攻などでその状況はさらに厳しいものになっていると考えられます。現在の日本の状況、特に現役世代が直面している問題について、基調講演者、パネリストの皆様それぞれの立場からお話しいたします。それではどうぞ、今日のシンポジウムをお楽しみください。

開催趣旨

大学女性協会 企画委員長 中道貞子

コロナ下の生活が始まって3年目を迎え、いろいろな問題が顕在化しています。そのような中で開催する今年度のシンポジウムは「教育・ジェンダー・共生」を主要なテーマとして「ユースの視点から見直そう これからの日本」という課題に取り組みます。基調講演は、ながら若者に寄り添い、若者の就労や学習支援に関わっておられる津富宏氏にお願いしました。パネリストは若手研究者、大学教員、大学生の方がたです。それぞれの立場から、現在の活動内容、現代社会が抱えている問題、自分にとっての課題などをお話しいたします。

大学女性協会はつねに「教育・ジェンダー・共生」の視点を踏まえ、社会の変革を担う女性リーダーの輩出を願って活動してきました。シンポジウムでは、ユースの声に耳を傾け、ユースの力を日本の未来に活かし、よりよい社会を実現するために何が必要かを一緒に考えたいと思います。課題解決に向け、私たち一人ひとりの力は微力でも、ネットワークを広げて繋がることで大きな力になります。シンポジウムが一歩を踏み出すきっかけになることを願っています。

プログラム

- 10:30 開会 総合司会 市川知恵子
会長挨拶 岩村道子
- 10:40 第一部 基調講演
ケアしあう社会をつくる
津富 宏（静岡県立大学 国際関係学部国際関係学科 教授）
- 12:10 昼食・休憩
- 13:10 第二部 パネルディスカッション
趣旨説明 中道貞子
- 13:20 パネリストの発表 1
安心して私生活と両立できる研究環境とは
一原 雅子（総合地球環境学研究所 京都気候変動適応センター研究員
京都支部会員）
- 13:45 パネリストの発表 2
子どもの貧困と養育費の確保について
宮下 摩維子（駿河台大学 法学部 助教 東京支部会員）
- 14:10 パネリストの発表 3
誰もが学び続けるために～私たちの活動報告～
佐藤 美帆（静岡県立大学 看護学部 2 年生「学生助けたいんじゃー」メンバー）
松浦 旦周（静岡県立大学 国際関係学部 3 年生 同上メンバー）
- 14:35 休憩
- 14:50 パネルディスカッション
パネリスト 一原雅子・宮下摩維子・佐藤美帆・松浦旦周
コメンテーター 津富 宏
ファシリテーター 中道貞子
- 15:50 諸連絡
- 16:00 閉会

基調講演者のプロフィール

つとみ ひろし
津富 宏



(静岡県立大学 国際関係学部国際関係学科 教授)

内容：多くの人々が生き辛さをかかえる中、私たちは支えあうこと、助けあうこと、ケアしあうことが求められている。ケアしあえる社会にどのように向かうか、そのための取り組みと方向性について考えたい。また、女子学生など女性の置かれている立場に目を向けてみて気づくことについても触れたい。

略歴：東京大学教養学部教養学科卒業、ウィスコンシン州立大学社会学部修士課程修了、少年院などの勤務を経て、現在、静岡県立大学教授。NPO 法人「青少年就労支援ネットワーク静岡」顧問。著書に「若者就労支援『静岡方式』で行こう！！」(クリエイツかもがわ)など

パネリストのプロフィール

いちばら まさこ
一原 雅子



(総合地球環境学研究所 京都気候変動適応センター研究員 京都支部会員)

内容：育児とキャリア構築双方を目指す若手研究者たちは、公私ともに焦りや不安なく豊かな生活を送ることを願っている。研究に没頭できる研究員を想定した現在の研究者評価の在り方を見直す必要があるのではないか。報告では研究対象である気候変動問題にも触れたい。

略歴：東京大学法学部政治学研究科法曹養成専攻修了、京都大学大学院地球環境学舎博士後期課程修了(地球環境学博士)。第14回スミセイ女性研究者奨励賞受賞。三児の母

みやした まいこ
宮下 摩維子



(駿河台大学 法学部 助教 東京支部会員)

内容：日本の子どもの貧困率、特にひとり親世帯のそれは非常に高い。子どもの貧困問題は教育格差を生み、大きな社会的損失である。その一因として挙げられる未払い養育費の回収を軸に、社会がこの問題にどう取り組むべきかについて問題提起をしたい。

略歴：早稲田大学法学部卒業、同大学院修士課程を経て博士課程単位取得満期退学、ロンドン大学(UCL)LLM 修士課程修了。コロンビア大学、首都大学東京などを経て現職

さとう みほ
佐藤 美帆

(静岡県立大学 看護学部 2年生 「学生助けたいんじゃー」メンバー)

まつうら あきのり
松浦 旦周

(静岡県立大学 国際関係学部 3年生 「学生助けたいんじゃー」メンバー)



内容：私たち学生有志で立ち上げた「学生助けたいんじゃー」は、大学生が貧困で学びを諦めることなく、大学で学び続けられるためのさまざまな活動を行っている。その一つは学生ボランティアセンターが実施している「たべものカフェ」での食料支援とヒアリングへの協力である。活動を通して見えてくる学生の現状を社会に向けて発信していることについても報告する。

ご来場の皆さまへ（諸連絡）

本日は 一般社団法人 大学女性協会の 2022 年度公開シンポジウム

「教育・ジェンダー・共生 ～ユースの視点から見直そう これからの日本～」

にご来場くださり、ありがとうございました。

<アンケートのお願い>

今後の企画や運営の参考にさせていただきますので、アンケートへの回答をよろしくお願ひします。
対面参加の方は、最初にお配りしたアンケート用紙にご記入の上、退出時にご提出ください。

ZOOM 参加の方は、以下の URL または QR コードから回答をお願いします。

<https://forms.gle/X9MNeAwiR1ZQz6aU7>



<資料や報告書に関して>

本日の発表資料類がご本人から提供された場合は、12月15日をめぐに本協会のホームページ

<https://www.jauw.org>

にアップロードする予定です。

報告書は年度内に作成する予定です。大学女性協会の会員およびグーグルフォームからの申込み時に希望された方には 2023 年 3 月中にお届けします。まだお申し込みでない方で報告書をご希望の方は郵便、またはファックス、メールでご連絡ください。お問合せは電話でも応じます。

一般社団法人 大学女性協会

住 所：〒160-0017 東京都新宿区左門町 11 番地 6 パトリシア信濃町テラス 101

T E L：03-3358-2882 （原則 月・火・木・金の 11:00～15:00）

F A X：03-3358-2889

E-mail：jauw@jauw.org

一般社団法人 大学女性協会は、1946 年に、女性の高等教育の向上と、男女共同参画社会の推進、および国際協力・世界平和を願って、創立されました（当時の名称は大学婦人協会）。

平和な世界の実現を目標に、70 年以上にわたって、国際連合をはじめ国内外の諸団体と手を携えつつ、種々の活動を展開しております。つねに、より多くの方々に大学女性協会へのご参加を呼びかけております。ご関心をお持ちの方は、お近くの会員、または直接当協会へご連絡ください。（連絡先は上記に同じ）

一般社団法人 大学女性協会 会 長 岩村 道子

副会長 中道 貞子 シンポジウム企画委員長

副会長 市川 知恵子 シンポジウム実行委員長